

12・1月 みらい塾 活動報告

「スタディーツアーin静岡」

○1日目

静岡スタディーツアーの1日目は、常葉大学とオクシズベースを訪れました。常葉大学ではオクシズマップの制作についてのお話を聞いてきました。マップには観光地だけでなく生活に使う場所を追加することでオクシズのような田舎でも生活できることを伝えて移住者を増やす工夫を学びました。また、イベントを企画し、それと地域をつなげて県外の人に地域のことを知ってもらうことを学びました。



オクシズベースでは、オクシズの移住者を増やす取り組みについてのお話を伺ってきました。まずはSNSやパンフレットを使って幅広い世代に地域のことを知ってもらうことが大切だということ学びました。また、一気に移住者を増やそうとすると移住に繋げるまでに時間がかかってしまうので、1000人に1人移住すれば十分というお話を聞いて、私達みらい塾も大人数向けではなく、少人数に向けた取り組みの方法を考えてみたら上手く行くのではないかと思いました。また、パンフレットを制作するなら一個のパンフレットに一つのコンテンツを特集し、特定の人だけに向けたパンフレットを作ることの大切さを学びました。

今回の学びを通して、みらい塾のこれからの活動に活かせることはどんどん取り入れて、地域活性化に貢献していきたいなと思いました。【矢野】

○2日目

静岡スタディーツアーの2日目では日興美術株式会社を見学したあと三島市に移動して三島市役所とみしま未来研究所を訪問し、移住促進のためのヒントや、実際の企画などを伺うことが出来ました。



日興美術株式会社見学で学んだことは、ターゲットを絞った上でデザインを考えることや、世代の境を作らないこと、実現できるかどうかよりもまずはたくさんアイデアを出してみることなどです。三島市役所では、若い世代の人々が進学等で転出しても再び戻りやすい環境を整えることや、自分達で情報を発信しつつ、移住者に実際の声を発信していただくことを重視していることなどを教えていただきました。みしま未来研究所でのお話は、ただ移住してくるだけでなく、移住者と地元の方が気軽に交流が出来たり、共同作業する場を設けたりして関わりをもつことでコミュニティが広くなり、更に交流関係も多くなるので、近辺の雰囲気良くなるだけでなく、地元の方にとっても移住者にとって

も、さらに住みやすい町にでき、地域の情報も簡単に手に入る環境が作れるというお話を伺いました。

上記の場所で伺った話のひとつひとつが自分の発想になかったものばかりで、自分自身の考えが広がったと感じました。今回のスタディーツアーを糧に、学んできたものを生かしてさらに精進して参りたいと思います。【森田】

「大間々官民共創デザイン策定に係るワークショップ」

みらい塾生3名で大間々官民ミーティングに参加してきました。普段あまり地域の方々とディスカッションをする機会がないので、様々な世代の方々とお話をしてみただけ知らないところがたくさんあるなど感じました。2回目のミーティングでは大間々の魅力についてグループで話し合いをしました。4つのグループに分かれて話し合いをしたのですが、どのグループでも大間々の魅力はたくさんあるとお話していただき、改めて大間々の魅力を大切にできたらいいなと思いました。ビジョン案の提案をする日までに、大間々の魅力を存分に出せるような案が作れたらいいなと思いました。【上野】

